

図書館だより



平成 28 年 6 月 24 日発行

晴天に恵まれた体育大会で幕を開けた6月。図書館でも、ミニおはなし会や映画会などの催しを行いました。参加してくれたみなさんは楽しんでくれたでしょうか。これからも色々な企画を行っていきますので、今回は参加できなかった人もぜひ次回は参加してください。また、館内に設置したしおり作りコーナーもとても好評でたくさんの方がしおりを作ってくれました。愛用してくれていると嬉しいです。

さて、5日に関東地方も梅雨入りが発表され、梅雨真っ只中のこの季節、みなさんはどんな風に休日を過ごしていますか。雨の日はどこに出かけるのも億劫と感じる人も多いかもしれませんね。ですが、雨の日でも楽しめる場所は色々あります。見頃を迎えている紫陽花を見に出かけたり、星空に癒されにプラネタリアムに出かけたりするのは、いかがでしょうか。雨の日も上手に楽しみながら過ごしましょう。



鎌倉いちおしの紫陽花*

291-カ 『鎌倉のあじさいと名花名木めぐり』 アボック社

鎌倉の紫陽花といえば、「紫陽花寺」の別名を持つ、明月院が有名ですが、他にも紫陽花の名所である寺社がたくさんあります。その紹介はもちろん、寺社ごとに境内に咲く紫陽花の配置、種類も載っていて、紫陽花めぐりにもってこいの1冊です。紫陽花の種類についても丁寧に解説されており、いつも眺めている紫陽花の名前、初めて見る紫陽花の名前など、たくさんの紫陽花の名前を覚えることもできます。また、花の様子を伝える文章からも、それぞれの紫陽花がいかに魅力的で美しいかが伝わってきます。紫陽花に彩られ、より深みを増した趣ある鎌倉を楽しんでみましょう。

プラネタリアムを巡ろう*

440-コ 『全国プラネタリアムガイド』 日本プラネタリアム協議会 || 監修 恒星社厚生閣

プラネタリアムと聞いて、みなさんはどこのプラネタリアムを思い浮かべますか。サンシャインシティ、東京スカイツリータウン、多摩六都科学館、日本未来科学館など、関東にも大きなプラネタリアムがたくさんありますが、幼い頃からよく通った地域のプラネタリアムを思い浮かべる人もいないのでしょうか。実は日本はアメリカに次ぐプラネタリアム大国なのです。この本では昔懐かしいプラネタリアムから最新のプラネタリアムまで日本全国のプラネタリアムを網羅し、紹介しています。しかも、館ごとの特色や楽しみどころを紹介しているのは、それぞれの館の職員さんです。その場で働く人の言葉からは、その館の魅力がしっかりと伝わってきます。これを読んでみなさんはどのプラネタリアムに行きたくなるでしょうか。

☕ 自宅でカフェ気分を楽しもう ☕

「紫陽花もプラネタリアムもいいけれど、雨の日はやっぱり家の中でのんびりしたい」という人におすすめしたいのが、自宅にしながらカフェ気分を味わうことです。最近ではカフェごはんのレシピ本やラテアートの本など、自宅でカフェ風メニューを作って楽しめる本がたくさん出版されています。おいしいだけでなく、盛り付けにもこだわったおしゃれな料理やスイーツを手作りし、のんびりとランチタイムやおやつタイムを過ごしてみるのも雨の日の楽しい過ごし方のひとつです。それをきっかけに料理に目覚め、梅雨の間に料理の腕があがる、なんてことも期待できそうですね。

596-オ 『パンケーキ&ホットケーキ』 おおつぼ ほまれ || 著 日東書院

デザートに食べる甘いパンケーキもおいしいけれど、食事のお供に食べる甘くないパンケーキもこれまた美味。この本では、食事メニューのパンケーキをメインに様々なパンケーキメニューが紹介されています。アボカドやツナをのっけて、チーズソースをかけた、鮭フレークやコーンを生地に練り込んで焼き上げたり、チキンサラダやカリカリに焼いたベーコンを添えたり、食欲をそそられるメニューばかりです。また、焼きそばやカニのほぐし身を生地に練り込んだものやイカ墨を使ってフォカッチャ風に仕上げたものなど、変わり種のメニューも気になります。

596-イ 『たかこ@caramel milk tea カフェのデザートとランチのレシピ』 稲田 多佳子 || 著 主婦と生活社

ケーキ、デザート、ランチ、焼き菓子のうちカフェメニューのレシピ。様々な食材を使ったランチのレシピは、「チキンの香草焼きセット」、「オーブンフィニッシュのハンバーグセット」、「厚揚げの酢豚風セット」など、本当にカフェで出てくるメニューのよう！盛り付けもしっかり参考にしてカフェ気分を盛り上げたいところです。また、カフェに行くと、ついつい食べてしまうのがスイーツ。この本で紹介されているカフェスイーツも何を作ろうか悩んでしまうほど、どれもおいしそう。たくさん作って、欲張りなスイーツの盛り合わせプレートを作ってしまうのもいいですね。

🛍️ 新聞紙でエコバックを作ろう 🛍️

しおりに引き続き、新たな制作コーナーを図書館内に開設しました。今回の制作物は、新聞紙で作るエコバッグです。「新聞紙かあ…」と思った人も実物を見たら「新聞紙でこんなにおしゃれなバッグが作れるなんて！」ときっと驚くはず。形のバリエーションもあるので、好みや用途に合わせたバッグを作ることができます。しかも、新聞紙を何枚も重ねて作るので、丈夫です。今回も道具は図書館で揃えてありますので、手ぶらでOK！英字新聞やマスキングテープ、切り絵も用意していますので、可愛いエコバックを作ってみましょう。



🇯🇵 ニッポン再発見 🇯🇵

ニッポン再発見第3回は関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、東京、千葉、神奈川)です。日本三大名園の借樂園がある茨城。日光東照宮や藤のガーデンが有名なあしかがフラワーパークのある栃木。草津や伊香保など名湯がひしめく群馬。小江戸川越や秩父が賑わう埼玉。横浜、鎌倉、箱根といくつもの観光名所を持つ神奈川。ディズニーリゾートだけでなく、海ほたるや有数の参詣人を誇る成田山新勝寺のある千葉。そして、言わずと知れた東京。みなさんの生活圏でもある関東ですから、その魅力については既に色々知っていることがあるかと思いますが、一緒に関東の魅力を再発見してみましょう。



東京には魅力的な坂道がいっぱい

291-タ『タモリのTOKYO坂道美学入門』 タモリ || 文・写真 講談社

坂道好きで有名なタモリさんが東京の「よい坂」を紹介しています。1. 勾配が急である 2. 湾曲している 3. まわりに江戸の風情がある 4. 名前にいわれがある、というのが、タモリさんの言う「よい坂」なのだそうですが、都会のイメージが強い東京も、こうして見ると、あちこちに風情のある坂道が存在しているのだなあと新たな東京の一面を知ることができます。坂道と併せて、近辺のお散歩ルートとおすすめのお店なども紹介されていて、東京をゆったり歩いて楽しむためのガイドとしておすすめの本です。また、激突しそうな^{かいなん}豊南坂や「裏道」だよと教えたなら多くの芸能人が利用するようになった^{めきり}自切坂、失恋女性に話しかけられた^{どうげん}道源寺坂など、ところどころで語られているタモリさんの思い出話も読んでいておもしろいです。

納豆のおいしい食べ方

596.3-タ『おかめちゃんの納豆レシピ』 タカノフーズ || 監修 ワニブックス

タカノフーズは初代社長 高野徳三氏が茨城県に創業した「高野商店」からスタートし、今も茨城に本社を構える会社です。日本一の納豆シェアを誇るタカノフーズの目玉商品のひとつが「おかめ納豆」です。このおかめ納豆を使った“社員だけが知る”秘密のレシピが1冊の本になりました。

みなさんは納豆があつあつのごはんに合うだけでなく、和食、中華、アジアなどどんな料理に使ってもよく合う万能な食材だと知っていたでしょうか。納豆ごはんのアレンジレシピから始まり、納豆茶碗蒸し、納豆ポテもち、納豆のガツパオ風炒めなどおかずになる料理や納豆ドライカレー、納豆ジャージャー麺などの主食など、とにかくバラエティ豊かな納豆料理が紹介されています。この納豆づくしのレシピ本さえあれば、栄養豊富な納豆を毎日飽きることなくおいしく食べることができます。

古代史には、まだまだロマンがいっぱい

210.2-ウ『稲荷山古墳の鉄剣を見直す』 上田 正昭 || 監修 学生社

日本史の世界ではいろいろ新しい発見があり、今まで常識とされていたことが覆ることがあります。鎌倉幕府開府の年代が1192年から1185年になり、聖徳太子の肖像はどうやら違う人物だったらしいとか。稲荷山古墳でも新しい発見があり、今までとは違う古代史の様子がうかがえるようです。この本ではその成果を発表した講演とシンポジウムの内容をまとめています。小学生の時社会科見学で見た国宝の鉄剣。そこにはワカタケル(雄略天皇)を表す文字があることから、熊本^の江田船山古墳から出土した鉄剣の文字も読み解くことが可能になり、3世紀代熊本から東国の埼玉にいたる広い地域にヤマト王権の支配が及んでいたとわかりました。またさきたま古墳群のできた順番も、円墳から前方後円墳ではなく、円墳の方が新しい上にとっても大きいことが判明したそうです。



図書館司書の「今月はこの本を読みました」



中島たい子さんの『院内カフェ』(913.6-ナ 朝日新聞社)を読みました。

総合病院の中に併設されたカフェが舞台になった小説です。カフェで働く人、常連の医者、病院の患者、お見舞いに来た人、視点が次々と変わりながら物語が進んでいきます。前半にはいきなりカフェ内でハプニングが起こって(奥さんが旦那さんに向かってソイラテをぶちまけます!!)、居合わせた人々が騒然となります。そこで「何やらこの先不穏な感じがするぞ…」とハラハラしてしまうのですが、後半には心温まる展開が待っています。また、最後にカフェを使うみんなを幸せにする素敵なクリスマスプレゼントが届くのですが、あれは一体誰からだったのでしょうか。私は、あの人だ思うのですが…。

この他に『コーヒーが冷めないうちに』(913.6-カ 川口俊和 || 著 サンマーク出版)も読み、カフェごはんの本も紹介し、と何だか6月はカフェやコーヒーと縁のある月でした。

【今井】



『お静かに、父が昼寝しております ユダヤの民話』(388-モ 岩波書店)を読みました。

民話を読むと、それぞれの文化の違いが鮮明に感じられる気がします。日本の民話だと、結構残酷な話やしみじみ悲しい話などが思いつきませんか。『さるかに合戦』『かちかち山』などはひどい目に合った仲間のために、みんなで力を合わせて敵を倒します。また、約束を破ったため幸せを失う人間が描かれている『雪女』『鶴の恩返し』では、人間は報いを受けただ哀しい思いだけがあとに残ります。一方、この本に出てくる話では、何か事があると、裁判官に話を持ち込みます。大層冷静で、弁論が重要な要素なのです。民話の中には、「タルムード」と呼ばれるモーセが伝えた口伝律法をもとに書かれているものがあるので、そうなるのかもしれませんが、しかし、魔神までもが裁判所での決着を求めるのですから、徹底しています。書名にもなっている話は、エルサレムの神官がユダヤ教徒ではない人物が見せた親孝行に感心し、ユダヤ教徒の持つ戒律の大切さを再認識するというものです。たとえ宗教は違っていても、正しいものは認める懐の広さを感じられました。そして親を大切にすることの文化による違いはないようです。【鈴木】